

幸区区民会議 第4回専門部会B「子育て・環境・魅力づくり部会」

開催日時 平成18年12月14日(水) 午後6時30分～8時30分

会場 幸区役所5階第1会議室

参加委員

専門部会B委員 今井淑子部会長、松世三重子副部会長、小保方健次、酒井道子、
庄司佳子、菅野勝之、成田信子、根本健、深瀬和則
(欠席：小島春男)

専門部会A委員 葉山直次

事務局(総務企画課) 高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員
(こども総合支援担当) 吉田主幹

次第

1. 報告事項

第3回企画運営部会(12月13日(水)開催)の報告

2. 議題

1 委員の活動紹介

2 「安心して子育てできる環境づくり」について

(1) 提案委員からの説明

ア 子育てしやすいまちづくり(酒井委員)

イ 読み聞かせ活動の推進(成田委員)

(2) 意見交換

(3) 検討事項の絞込みについて

3 「魅力づくりと市民活動の推進」について

(1) 第3回区民会議での説明内容について

3. その他

第5回専門部会の日程について

進行：今井部会長

開 会

本会議の情報公開に関する委員の了承。

次第、配布資料の確認。

前回の質問に対する回答(配布資料「別紙」参照)

幸区区民会議第3回専門部会B(11月22日開催)内で菅野委員から提示された、こども総合支援担当吉田主幹への質問に関して回答があった。

主な内容は、以下のとおり。(詳細は当日配布資料を参照)

質問1 「次世代育成支援対策推進法」(平成15年7月16日公布)および同法を推進するための「行動計画策定指針」(平成15年8月22日告示)との関係および、どのような組織形態で討議し、策定したのか。

吉田 平成 15 年に次世代育成推進対策法が制定され、市町村行動計画の策定が義務付けられたが、川崎市では、平成 10 年に子どもと子育ての総合的な支援計画として「かわさき子ども総合プラン」を策定している。今は、「かわさき子ども『夢と未来』プラン」が策定されている。(概要版を配布)

市では、平成 15 年 10 月に、「川崎市次世代育成支援対策行動計画委員会設置要綱」を設置し、児童福祉審議会、各種子育てグループ等の意見聴取、アンケート調査、外国人市民懇談会等の市民討議を経て「かわさき子ども「夢と未来」プラン」を策定した。計画期間は、平成 17 から 26 年度の 10 年計画である。18 歳未満のすべての子どもとその家庭を対象としている。

「かわさき子ども「夢と未来」プラン」の 17 年度の実施実績などが市のホームページに掲載されている。

幸区の子ども総合支援担当では、平成 18 年度、「みる子育て情報さいわい」を年に 2 回発行している。また、地域における子育て支援、父親の子育て支援、第三土曜日の開所の実施等、関係各課がそれぞれに重点施策に照らし合わせて、多様な事業を実施している。

質問 2 地域子育て支援センターふるいちばの土曜開所利用者数に、一般区民が記載されていないのはなぜか。こども総合支援担当として、地域教育会議をどう考えているか。

吉田 子育て支援センターふるいちばは、市立小付属幼稚園跡地を活用し設置された。平成 17 年度から父親の参加も必要ということで、土曜開所を 3 月に 1 回実施、平成 18 年度は 5 月から 19 年 3 月まで、毎月第三土曜日を開所している。父親がどれだけ参加しているか、19 年度に向けて参考にする。

平成 18 年度から地域教育会議にはこども支援担当参事が出席している。また、今年の 6 月に幸区こども総合支援ネットワーク会議を立ち上げたが、地域教育会議の代表者も委員になっている。

菅野 「かわさき子ども「夢と未来」プラン」の本編はどこでもらえるか。

吉田 市の健康福祉局こども計画課にある。

菅野 幸区には自主防災会議があり、そこでは、「災害のときに、無線の人は危機管理センターと連絡をとること」となっている。しかし、無線の人は全市に 54 人しかいず、一区に 10 人もいない。無線には他の情報も入ってくるので、プライバシーの問題もある。中継点をつくらないと、完全な機能が発揮できない。良いことが提案されていても、具体的に点検すると、みんなで討議し、さらに充実しなくてはいけない部分が出てくる。子どもについても同様なので、本編を入手したい。

今井 子育て支援センターは、区内では古市場一箇所か。

高橋(事務局) 来年 4 月に北加瀬に保育園ができ、そこに二つ目ができる予定。

今井 遠い人はどう行けばいいのか。

吉田 横浜や区外など、遠くからの利用者も多い。他区も 2、3 箇所だ。河原町あたりにもできると良いと思うが、この 2 箇所をどう子育て支援に結びつけるかが大切。

成田 3 箇所目の計画はあるのか。

吉田 市のこども計画課が保育所、子育て支援センターの設置を担当している。区には 3 箇所目の情報は入っていない。

1. 報告事項

(1). 第3回企画運営会議の日程及び内容について

第3回企画運営部会(12月13日開催)の結果について、松世副部長から報告があった。特に質問はなし。

2. 議題

(1). 委員の活動紹介

各委員が、自身の取り組み内容や、推薦団体の活動内容を紹介した。

深瀬委員(日吉商店街連合会)

日吉商連として、加瀬山の山の上で日吉祭りを開催している。また、各商店街単体では、地蔵まつり(南加瀬原町商店街) 起震車体験、消火体験(南加瀬中央通り商和会)などを実施している(起震車体験、消火体験は、現在場所がなくなりやってない)。

商店街で常に問題になるのは空き店舗。客にどう売り込むか。日吉商連全体として、どうしたらいいかわからない。単体の客を呼び込むのは、まだできていない状況だ。

根本委員(公募(緑化推進))

環境局の緑化事業の一環として、フローラかわさきを実施。何とか駅前をきれいにしようと、花壇を整備した。以前と比較して非常にきれいになった、ゴミも少なくなったと好評だ。都市景観の一環として、駅前環境をよくする活動に取り組んでいる。緑化を通して、川崎駅前のホームレス対策、ゴミ、放置自転車などの問題にも効果が出ている。

さいわい花クラブでは、公共花壇の植栽事業を実施。大師堀で小学生や塚越中学校の緑化委員と協働し、美化運動に取り組んでいる。せせらぎに花壇をつくり、気持ちよく通れるようにする。また、花苗、苗木の交換会を年に1回開催。無料でハーブティーを試飲してもらう。子どもの環境教育の一環を兼ねて、区役所の顔として植栽をする。まちをきれいにしながら、いかに環境に配慮できる子どもを育てるか。環境教育、体験学習の一環として取り組んでいる。企業貢献として、川崎信用金庫から花の配布、富士通からコンポストの肥料を受けている。環境をよくし、花を育てながら、自分たちもいい環境をつくるよう、企業の協力を受け、さいわい花クラブとして活動している。

菅野委員(幸区まちづくり推進委員会)

任期は2年で、来年3月に終わる。年間12回開催。委員は59名いるが、実際に活動しているのは約43名。名前だけの委員がいるので、時期の募集方法をどうするかが問題になっている。3部会に分かれて活動している。

1. さいわいまちづくり楽校部会

前期で3年かけて都市計画マスタープランの基礎となる「地区カルテ」を作成した。楽校部会の中に都市計画マスタープランの専門部会を作っている。専門部会には、他の部会員、まちづくり推進委員以外の区民も参加できる。

これまで3回のワークショップを開催。10団体のポスター展示と発表を聞く会を開催した。

2. ご近所の底力! まちの改善部会

防災が中心テーマ。前期は道路危険箇所350箇所を調査し、パンフを作成。担当者は、パンフに基づいて、できるところから改善を進めていく。

今期は防災に取り組んでいる。震災後3日間は行政をあてにせず、自分たちで救護・救出活動、水や食料の確保をしないといけない。自主防災にどう重点を置くか。無線に関しても、実態を見ると役に立たない。それをどうすればいいかを検討している。

3. ふるさと部会

区内を3回ブロック分けて歩いた。前期にガイドサインを7箇所立てた。幸区に入る場所に立てたので、区民の目にはあまりつかない。今期は、もう少し街中に立てる予定。民地には立てられない。子ども用の幸区散歩コースガイドブックも作成中。

2年間といっても、課題を何にするかで1年半は終わってしまい、実際にアクションに取り組むのは残りの半年。そこで、何ができるか。区民会議は提言することが任務で、委員自身は行動しない。まちづくり推進委員会は、実際に自分たちでやる実働部隊。委員は、その点をきちんとわかっていないといけないと確認した。2年間の成果をきちんと残す。

庄司委員（さいわいリバーウォッチング実行委員会）

平成15年度から3年間、魅力ある区づくり推進事業として、「さいわいリバーウォッチング」に取り組んだ。矢上川をテーマに、四季を通して環境学習をした。春は一般の人を対象に野草の観察会と、てんぷらづくりをし、自然の豊かさを再発見した。夏は親子を対象に、川の中で魚とりをした。70人が参加。秋から冬は野鳥観察会を実施。矢上川を下流から源流まで歩くツアーを実施し、3年間で8回。50~80名が参加した。

今年は、ガイドパネルを作成中。リバーウォッチングで知った資源や歴史を育むためのパネルを2箇所で作成する。10~15人の小さなグループに分け、そこに指導者がついて実施する。

矢上川で遊ぶ会は、矢上川をフィールドに、自然観察会と自然保護、再生をめざす活動を、月2回開催している。

小保方委員（幸区子ども会連合会）

体育委員会、安全教育委員会、文化広報委員会、指導者養成委員会の4つで毎週日曜に活動している。

体育委員会では、バレーボール、野球、ドッジボール、羽根つき大会等。羽根つき大会は学年ごとに別れて開催、誰もが参加できるので、お母さんに人気がある。ラジオ体操は、これまで10団体まで減っていたが、今年度は20団体に増えた。

文化広報委員会では、学年ごとにテーマを決めた書初め、絵画などを実施。1月に審査会、2月に川崎市全体の会がある。

安全教育委員会では、夏の熱中症の勉強をする。

指導者養成委員会ではリーダー研修を実施。中高生、中高を卒業したシニア（18~25才）を対象。市、県、指定都市などの研修会に参加し、全国の人と勉強、交流をする。夏には、八ヶ岳少年の家で研修に参加する。以上が年間行事。

少年、少女消防団として、7地区に分かれ、30名ほどの連体で消防署に行き、ヘリコプターに乗ったり、はしご車に乗って勉強したりする。新鶴見操作場跡地では、旧山古志村の雪をトレーラー10台で持ってきて、雪遊びをさせる。300万円予算がかかるが、今年もスポンサーの人がやらせてくれと言っている。2月17、18日開催予定。

松世委員（夢コンサート実行委員会）

平成9年にスタートし、来年で10周年。実行委員は6人。企画運営をする。出演者選びが大変だ。チラシ、プログラムなどすべて手作りのコンサート。第3木曜日に、区役所1階ロビーで年6回、日吉合同庁舎で年に2回開催する。ソリッドスクエア、新川崎三井ビルなどでも開催する。ラゾーナかわさきのホールでも、室内楽を実施し、50回記念コンサートをミュージアムかわさきで開催した。

ロビーコンサートには、毎回150～200人が来る。音楽を通して輪が広がり、明るく潤いのあるまちになるとよい。

今井委員（さいわい市民活動懇談会）

市民活動団体の情報交換の場として、平成13年に区役所1階でスタートした。さいわい市民活動協働プラザが河原町団地にでき、自主独立団体として活動をスタートさせた。運営、管理などの課題があり、現在試行錯誤中だ。

6月に区との協働事業として、「さいわいコミュニティサイト」を立ち上げた。住民参加型のサイトであり、情報をどんどん載せてほしい。

幸タウンカフェ通信を12月1日に創刊。年4回発行予定。A4判かA3判か検討中。コミュニティサイトを見ない人にも、市民活動情報を提供したい。

他に、予約制で、月1回、おしゃべりカフェ相談を毎月開催している。ボランティア育成事業を11月にスタート。若者たちに市民活動を理解してもらうのが目的。高齢者の生活支援、インターネットカフェの運営。フリーマーケットとインターネットカフェを合わせたフリマカフェの開催など。

まだ、会の存在を知られていないので、パンフレットを団体に配布してほしい。インターネット環境がある団体は、アドレスが書いてあるので、イベント等の情報をぜひ掲載してほしい。

成田委員（公募）

幸区に越してきて3年目。いろいろな人と触れ合いたいという思いがある。以前住んでいたところで育児サークルを立ち上げた。幸区でも、多くの人と知り合えたらという思いで公募した。地域では、子ども会に関ったり、小学校、幼稚園の役員などをしたりしている。

酒井委員（公募）

平成13年度からスタートした子育て支援センターふるいちばに参加している。登録制で、0歳から就学前の子どもと保護者が自由に利用可能だ。幸区の北のはずれで、なぜ古市場かという声が当初はあった。年間39,000人が利用。月平均3,000人。1日150～200人。親子なので、70～80組の計算だ。新規登録者が年間900人ある。不利な条件の場所に建っているが、広範囲から利用者がある。

支援センターふるいちばだよりを発行。催しものなどを掲載している。平成17年度にボランティアを募集。現在の登録者は60人。実際は20人ほどが定期的に活動している。営繕、園芸、託児、図書、行事、手芸に分かれて活動。第一水曜日にボランティア交流会で情報交換をする。営繕は男性が大活躍している。

各種講習会もボランティアが指導し、リースづくり、雛人形づくりなどを開催。地域の童謡の会のグループなど、ボランティア以外の人も参加している。

(2)。「安心して子育てできる環境づくり」について

提案委員（酒井委員）からの説明

酒井委員

子育てしやすいまちづくりを提案する。

子育て支援センターは安心して子どもが遊べる場所として好評だ。平日でも父親の利用がある。支援センターという大きなものは古市場だけだが、市民館や各団体にフリースペース的なものがある。

それぞれに要望があるが、その中でも、安心して過ごせる場づくりだ。小さな児童公園はたくさんあるが、大きな公園がない。子どもの遊ぶ場、中学生の遊ぶ場が狭まっている。大きい公園を整備して欲しいという要望を出した。

現在、御幸公園でリフレッシュパーク事業が進んでいると知った。基本計画図ができ、平成18年度から整備がスタートしている。わんぱく遊び場、ちびっこ広場もでき、駐車場もできる計画になっている。場づくりということに関しては一つ知ることができてうれしく思っている。

子ども連れでまちを歩いたときに、安全に歩行できない状況がある。ベビーカーを押すだけでなく、車椅子、杖をつくお年寄りを見られる。鹿島田の商店街の歩道は狭い。店が商品をせり出し陳列しており、大変歩きにくい。傘をさすと、すれ違えない。歩道が整備されきれいになったが、車止めが太くてかえって歩きづらい。車止めへのぼり旗が立っており、風の強い日は目隠しになり危険だ。

商店街を活性化するために陳列方法やのぼりも大切だと思うが、もっと歩きやすくないか。

深瀬 マルエツができた前の歩道のところか。

酒井 鹿島田の駅に通じる商店街。車止めの間に商品を陳列しているのも見られる。

菅野 出している店は限られるので、個別に対応した方が早い。

深瀬 日吉商連の区域ではない。商店街全体の集まりもあるので、話はしたい。

酒井 鹿島田の駅を利用することが多い。自転車の止め方なども関係する。学習塾があったときは、子どもの自転車の止め方がひどかった。今はのぼり旗が危険だ。

かわさき子ども「夢と未来プラン」に、安心歩行エリア整備計画があると知った。

北谷 概要版4ページ、基本目標6に「子どもと子育てにやさしいまちづくり」がある。ソリッドスクエアから御幸通りは、長い年月をかけて地中化などをし、歩きやすい道路を整備している。

安全で快適な道路環境の整備として、国土交通省と警察庁の施策を進めている。交通事故の件数を減らす取り組みの中で、市も協力している。「ヒヤリハット」の調査を実施し、対策を講じている。横断歩道付近の歩道に色を塗る、夜、停止線をわかりやすく光らせる、などの取り組みをしている。

提案委員（成田委員）からの説明

成田委員

読み聞かせ運動には、いろいろ効果があると聞く。川崎市では、音楽のまち川崎と同様、読書のまちかわさきというキャッチフレーズがあることを知った。情操教育の一環、母親たちの心を通わせる一環として推進したい。子どもたちも、考える力、理

解する力をつける。母親、父親と心を通わせる一環として小さい頃から取り組む。心を通わせるコミュニケーションの手段、お母さん同士の情報交換、発見の場にもなる。

ネットワークをつくるのが難しいという話があった。読み聞かせのネットワークがあってもよい。行政が開催するものから点在する読み聞かせ団体まで、大小あるものを、それぞれにレベルを上げる。学校でも開催しているとは知らなかった。少人数で地道にやっている学校もある。各校がレベルアップをはかる。読書ボランティアの専門家が来て、講習会をする。それに参加すると目からうろこだ。

点在している読み聞かせ運動のレベルをあげる。集まったお母さんからリーダーができ、交流会ができることで、問題点が把握できる。読み聞かせとはどうあるべきか、質の向上をはかる。問題点は現場にあるので汲み取ってあげる。人、物、場所の関係でひろえるとよい。子どもフェスタが年に一回あるようだが、PRしてもらい、活動を広めていく。ちょっとした待合室があればできる。区役所に子ども連れで来る人は、区役所に託児所があればいいと思う。小さなスペースに絵本があればよい。未来に向かってできることなので、地道に取り組んでいける方向性が示せるとよい。

松世 酒井委員と同じ地域に住んでいる。鹿島田商店街を毎日自転車で走る。のぼりが非常に邪魔。自転車でいくと、のぼりが目にあたり危ない。のぼりを縦ではなく、横にできるとよい。あるとにぎやかでよいが。

深瀬 常にあるのか。

菅野 出し入れしている。本屋と薬屋が多い。

松世 駅に向かう通行人が多い。車、自転車も停まり、交通量が激しい。商店街の人たち同士では話し合う機会はないか。

深瀬 市全体の会もあるので、話してみる。

酒井 電気がつく看板がお店から垂直に出ている。足場が危ない。

菅野 道路の不法占拠になるので、本当は置いてはいけない。

成田 親の体よりもベビーカーが先なので、子どもが犠牲になる。

酒井 ベビーカーは90度に回れないので、大回りしないといけない。以前から言われているが段差も目立つ。「夢と未来プラン」に、バリアフリーの項目があるので、推進してほしい。とくに人通りの多い、鹿島田は車いすの人を見かける。より安全に、歩きやすい工夫をして欲しい。

深瀬 宣伝ばかりでなく安全性を考えて欲しい。

菅野 マルエツの前に自転車がなかったので、まちづくりで交渉した。現在は、マルエツを利用する人だけが止めるようになり、満杯なことはなくなった。個別に僕たちが相談しないといけない問題だ。私道、市道、県道、国道があるが、どこで直させるかはそれぞれ別だ。そのために、第2期に調査を行った。

日吉では、小倉小学校、東小倉小学校で子どもが作成した通学路の危険度地図がある。3月31日までに、鹿島田と小倉、小向西町、中幸町で細かく地図をつくる。参考を示すことで、全区に広げたい。

今井 予定時間が来てしまったので、残りの議題は、次回検討することによろしいか。

3．その他

第5回専門部会Bは平成19年1月18日(木) 18:30から開催 区役所第2会議室

閉 会